

沼津工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)		授業科目	特別活動Ⅳ
科目基礎情報						
科目番号	2022-631		科目区分	一般 / 必修		
授業形態			単位の種別と単位数	履修単位: 0		
開設学科	物質工学科		対象学年	4		
開設期	通年		週時間数	0		
教科書/教材						
担当教員	伊藤 拓哉					
到達目標						
1. 技術と自然や社会との関りや技術が関わる社会問題に関する具体的事例について、技術者の社会的責任を工学倫理の原則に基づき説明できる能力を養う。 2. 工学技術に関する具体的課題にチームで取り組む際、チームでの自分の役割を把握して行動し、活動の進捗状況をメンバーに報告できる能力を養う。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
技術と自然や社会との関りや技術が関わる社会問題に関する具体的事例について、技術者の社会的責任を工学倫理の原則に基づき説明できる。	技術と自然や社会との関りや技術が関わる社会問題に関する具体的事例について、技術者の社会的責任を工学倫理の原則に基づき説明できる。		技術と自然や社会との関りや技術が関わる社会問題に関する具体的事例について挙げるができる。		技術と自然や社会との関りや技術が関わる社会問題に関する具体的事例について挙げるができない。	
工学技術に関する具体的課題にチームで取り組む際、チームでの自分の役割を把握して行動し、活動の進捗状況をメンバーに報告できる。	工学技術に関する具体的課題にチームで取り組む際、チームでの自分の役割を把握して行動し、活動の進捗状況をメンバーに報告できる。		工学技術に関する具体的課題にチームで取り組む際、チームでの自分の役割を把握して行動できる。		工学技術に関する具体的課題にチームで取り組む際、チームでの自分の役割を把握して行動できない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	本校の教育目的は、1. 豊かな人間性を備え、2. 社会の要請に応じて工学技術の専門性を創造的に活用できる技術者の育成を行い、3. もって地域の文化と産業の進展に寄与することである。この目的を実現するために、授業計画に示す活動を通して技術者の社会的役割と責任を自覚する態度と実践的技術者として計画的に自己研鑽を継続する姿勢を身につける。					
授業の進め方・方法	授業内容：学級担任が定めた特別活動計画に従う。 実施場所：ホームルーム（HR）を原則とする。授業内容により実施場所がHRでない場合、学級担任の指示に従う。 評価方法：特別活動への参加（出席）の条件を満たすことにより合格とする。					
注意点	授業内容・方法のカッコ内の数字は時間数を示す。					
授業の属性・履修上の区分						
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	答案返却（前期末）（1）	目標の実現に向けて計画ができる。 目標の実現に向けて自らを律して行動できる。		
		2週	クリーン活動（1）	周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができる。 自らの考えで責任を持つてものごとに取り組むことができる。 社会の一員として、自らの行動、発言、役割を認識して行動できる。		
		3週	学校適応感尺度調査（1）	日常生活における時間管理、健康管理、金銭管理などができる。		
		4週				
		5週				
		6週				
		7週				
		8週				
	2ndQ	9週				
		10週				
		11週				
		12週				
		13週				
		14週				
		15週				
		16週				
後期	3rdQ	1週	答案返却（学年末）（1）	目標の実現に向けて計画ができる。 目標の実現に向けて自らを律して行動できる。		

		2週	卒業研究発表（7）	情報セキュリティの必要性および守るべき情報を認識している。 課題や要求に対する設計解を提示するための一連のプロセス(課題認識・構想・設計・製作・評価など)を実践できる。 提案する設計解が要求を満たすものであるか評価しなければならぬことを把握している。 経済的、環境的、社会的、倫理的、健康と安全、製造可能性、持続可能性等に配慮して解決策を提案できる。
		3週	就職祭	自身の将来のありたい姿(キャリアデザイン)を明確化できる。 その時々で自らの現状を認識し、将来のありたい姿に向かっていくために現状に必要な学習や活動を考えることができる。 キャリアの実現に向かって卒業後も継続的に学習する必要性を認識している。 これからのキャリアの中で、様々な困難があることを認識し、困難に直面したときの対処のありかた(一人で悩まない、優先すべきことを多面的に判断できるなど)を認識している。 高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業や大学等でどのように活用・応用されるかを説明できる。 企業等における技術者・研究者等の実務を認識している。 企業人としての責任ある仕事を進めるための基本的な行動を上げることができる。 企業における福利厚生面や社員の価値観など多様な要素から自己の進路としての企業を判断することの重要性を認識している。 企業には社会的責任があることを認識している。 企業が国内外で他社(他者)とどのような関係性の中で活動しているか説明できる。 調査、インターンシップ、共同教育等を通して地域社会・産業界の抱える課題を説明できる。 企業活動には品質、コスト、効率、納期などの視点が重要であることを認識している。 社会人も継続的に成長していくことが求められていることを認識している。 技術者として、幅広い人間性と問題解決力、社会貢献などが必要とされることを認識している。 技術者が知恵や感性、チャレンジ精神などを駆使して実践的な活動を行った事例を上げることができる。
		4週	学生生活支援室アンケート（1）	日常生活における時間管理、健康管理、金銭管理などができる。
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	工学基礎	情報リテラシー	情報リテラシー	情報セキュリティの必要性および守るべき情報を認識している。	3	後2
分野横断的能力	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができる。	3	前2
				自らの考えで責任を持つてものごとに取り組むことができる。	3	前2
				目標の実現に向けて計画ができる。	3	前1,後1
				目標の実現に向けて自らを律して行動できる。	3	前1,後1
				日常生活における時間管理、健康管理、金銭管理などができる。	3	前3,後4
				社会の一員として、自らの行動、発言、役割を認識して行動できる。	3	前2
				自身の将来のありたい姿(キャリアデザイン)を明確化できる。	3	後3
				その時々で自らの現状を認識し、将来のありたい姿に向かっていくために現状に必要な学習や活動を考えることができる。	3	後3
				キャリアの実現に向かって卒業後も継続的に学習する必要性を認識している。	3	後3
				これからのキャリアの中で、様々な困難があることを認識し、困難に直面したときの対処のありかた(一人で悩まない、優先すべきことを多面的に判断できるなど)を認識している。	3	後3
				高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業や大学等でどのように活用・応用されるかを説明できる。	3	後3
				企業等における技術者・研究者等の実務を認識している。	3	後3

				企業人としての責任ある仕事を進めるための基本的な行動を上げることができる。	3	後3
				企業における福利厚生面や社員の価値観など多様な要素から自己の進路としての企業を判断することの重要性を認識している。	3	後3
				企業には社会的責任があることを認識している。	3	後3
				企業が国内外で他社(他者)とどのような関係性の中で活動しているか説明できる。	3	後3
				調査、インターンシップ、共同教育等を通して地域社会・産業界の抱える課題を説明できる。	3	後3
				企業活動には品質、コスト、効率、納期などの視点が重要であることを認識している。	3	後3
				社会人も継続的に成長していくことが求められていることを認識している。	3	後3
				技術者として、幅広い人間性と問題解決力、社会貢献などが必要とされることを認識している。	3	後3
				技術者が知恵や感性、チャレンジ精神などを駆使して実践な活動を行った事例を挙げることができる。	3	後3
				課題や要求に対する設計解を提示するための一連のプロセス(課題認識・構想・設計・製作・評価など)を実践できる。	2	後2
総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力	提案する設計解が要求を満たすものであるか評価しなければならないことを把握している。	2	後2
				経済的、環境的、社会的、倫理的、健康と安全、製造可能性、持続可能性等に配慮して解決策を提案できる。	2	後2

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	0	0
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0